

11月21日の

妄想

おニタ



うたいぬゆね

# 今年の2匹は、仮想中...

"もしも～なら、どうだろう?"

どこかの空間  
あったか おこたつに  
白黒2ひき やって来て、  
もしもを まったり  
考えてみました。

その あれこれ  
どんなかな?

犬先生 →

↓ラクシャさん

↓Let's 仮想おこたtime!







ここはどこかの、赤いきれのこたつ  
そこに白黒2匹いつからかへんてこお話 しています

”ここ”は あの こたつルームかな？と

夢の奥はおかしなところ  
なんでも ゆっくり なみうち こきゅう  
なんでも でたらめ かわってしまう  
いつからか いつまでも  
どこからか どこまでも

いっぱい かわってしまったなら  
あの”ここ”じゃないかもしれない？

でも こたつ ほわんとぬくもり  
思わず2匹脚とにくきゅう 温まり  
私と 僕と まほうのこたつ あったら  
きっと”ここ”が”ここ”だねと ほわり 白い息

『もしも あるもの そせい ぜんとつかえ

まだそのものと いえるかな?』

...



ラクシャさん：こんにちは。今年も こたつの季節ですね。



犬先生：やあどうも。そして 静電気の季節なのである。あいたっ



白黒2ひきと じんわり おこた  
深遠ごししていたことをはなしつつ  
白さん 手に食器のまま すやすやと

起きてあわてて 困り顔  
「もう こんなことすべきでは ないというのに」

選択で日々 できていく  
様々な べきを思って  
それで浮かび また沈み  
べきのよしあしに ふたたび頭を抱えたり

本を読みながら 雲を踏み抜いた  
眠りながら記述した文字 おかしな現象に  
面白いじゃないかと 犬先生は言いました

私なんぞ 眠りながら おかしな宮殿を造るぞ  
造るそばから 微小な影の 群れとなり散らばると

控えておくれよ 皆があぶないからと

黒に言う白さん なぜかふわふわ雲の尾ふってる

『べきはほんとうにべきなのかな？

違うと思うの どこだろう？

確かと思うの どこだろう？』

. . .



犬先生：私の尾は巻くべきと思い絶えず渦を巻いているらしい。



ラクシャさん：へえ～…ほわふ…（まだぼんやり）



白黒2ずと あったか おこた  
今日はいろいろな2ずとおこた そこここに  
なので、みな 思った

ぼくらの定義って なんだろう？

黒ければ、犬先生？  
おや、黒いラクシャさんや 黒いおこたも 首かしげてる  
白ければ、ラクシャさん？  
おや、白い犬先生や 白いおこたも うなってる

赤いまほう犬たち 尾のある おこた  
アルマンダインの色の目 アクアマリンの色の目  
髪長さ 体型 爪や牙の長さ  
みればみるほど わからない

似て非 非で似の 集まりの中で  
ひとまずみんな こたつにあたった  
あるものは びりびり かみなり  
あるものは ぐるぐる ぶらっくほーる

いつしか 2匹が なんだか残った

彼らも旅か はてのない... と、ある黒犬  
でもわらって 飛んでったね と、ある白犬

半永久的に続くらしい 命のふしぎ かんがえています

『からす は黒い と、証明するには むずかしい?』

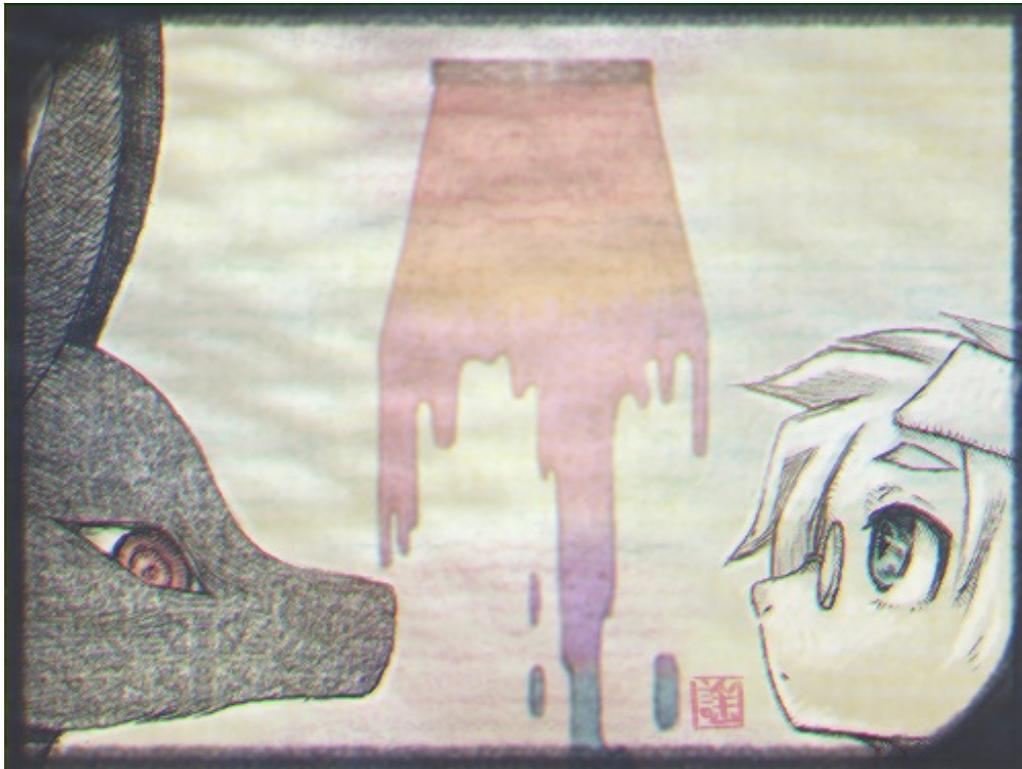
. . .



犬先生：深遠でたらめ広大な夢世界、私のような君も いるかも知れんな。



ラクシャさん：僕の様な君よりコワそうだね、君みたいな僕...



白黒2ずと いきてる？こたつ  
なでたり かいだり もぐりつつ  
2ひきにまた 仮想のひとつぶ

おこたは無限か？有限か？

有限だと思うと、白はいいました  
あらゆるものはいつかほころびみえなくなったり  
だから それぞれ 思い入れ ひとしおと

いや 無限ではないかと、黒はいいました  
たとい おこたが こわれても  
おこたを するもの あるかぎり  
おこたという概念は ほろびないからと

2匹は意見を たがえたけれど  
にた空想 こころのそらに  
それは 輝くみかんの太陽の周り 茶の月を まとわせ  
組みたっては崩れ おこたが巡りつづけるところ

『もしも それが 有限だったら？  
もしも それが 無限だったら？』



犬先生：昔から思っていたんだが、君の前足の肉球 無限に押せないか？



ラクシャさん：いやそんな事ないでしょう...ってホントウだーっ！



白黒2ひき おこたにあいさつ 今日はお散歩  
茂る草花のかげに 他の散歩のこ いました

いつから あるいているの？  
ワカラナイ モウ ズットデス

お腹がすけば 道をもどり おうちがみえたら かえってごはん  
お腹まだなら 道のさなか おうちもまだで ごはんもまだ

でも お腹はすいたが 道はぐんにやり おうちはまだで ごはんはあって  
それからずっと そのあいだ そのあいだをお散歩だそうな

黒犬 怪夢の鼻歌 歩く家を するんと作り  
白犬 快夢でひとまず 安眠のお茶を入れた

くたくたのこ きゃはーととびあがり  
水のみ鳥のような おじぎして  
飛び込んだ家は 駆けていった

まほうの白犬 姿をみてみたかった 母犬のぺろぺろぬくもり コロに

まほうの黒犬 やせた背に照った 激烈な陽光と 砂に沈む骨 コロに

『もし眠れぬなら 起きているでしょう  
もし眠ったなら 睡眠の中でしょう  
...もしもその狭間に 迷い込んでしまったら?』



犬先生：ヤウンゲ君という精霊は光と闇両属性でありどちらでもないのだ。



ラクシャさん：ほんとうに色んな種族の人たちがいるものだね。...僕らは何だろう？



白黒2ずとほどよいおこた  
その周りに結晶の迷路が  
そこでかれらは さっそく思った

なぜこのいろいろが できたんだろう？

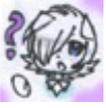
おそれかもしれないと 黒は思った  
変わる事 なくなること  
おそれをいだいて つくられてきたと

いよくかもしれないと 白は思った  
こうしたい こうしなくちゃ  
のぞみをいだいて つくられてきたと

対極の 大魔法使いたちのちいさなこたえ  
でも2ひきとも さすがによくわからなかった

このせかいは どうしてできてきたかは

『あらゆるものは なぜ できたかな？』



ラクシャさん：う〜ん...光学記録書の一文にあったっけか...なんだろうね。



犬先生：まァ良いじゃない。生涯取り組める謎があるというのも。



白黒のような2ずと、おこたのようなもの  
今日はたがいにもいろいろもやのなか  
前足さぐるも ころもとない

きみはほんとうに きみだよな？

魔法を使うにも みずからの姿が見えない  
てーぶるのはずが うろこの感触  
ふとんの部分 たたんだ翼  
頭をかいた手 すべすべ金属

ほんとうに君か ほんとうに僕か  
たしかめる途中で  
ほんとうの僕がなにかわからないことに気づいた

どきどき どわどわ なだめたのは  
痩せてすらりとのびた 銀河色の手  
頼もしく ふかふかな 白雲色の手

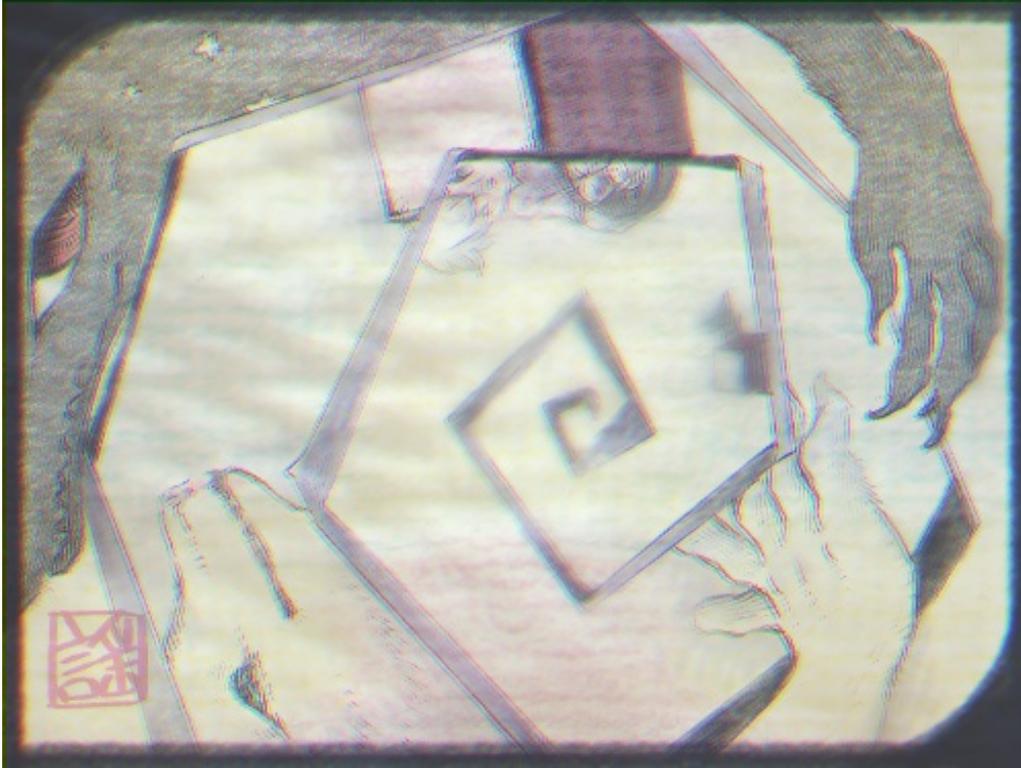
『いま、ここ、じぶん きめているのはなに？』



犬先生：そうそう、ラクシャ君は意外とがっしり体型なのである。ぺふぺふ。



ラクシャさん：ん～、どうかな。君はやせ筋型で大食だね。僕のアイス...



白黒2ずと、回転する おこた  
ぐるぐるしつつ 考えている

まほうはなぜ 効くだろうか？と

1+1が 2になるのとはちがい  
なんともへんてこ まほうのちから  
白は 何かのエネルギーかなといい  
黒は ふしぎだと思うところ からかな という

夢奥 ひっこし 魔法使いたち  
目覚めている世界では まったくのまぼろし  
でも 眠りの奥では どんなことでも  
魔法使い達の いこいの ひみつのすみか

古代には魔法 今は科学や  
再現が困難な ふしぎものごとも  
粒の混淆 こわさ まやかし おまじない  
粒の混淆 闇は近く光はるかな世界のトリックスターズ

きっと私達も 構成の粒の ひとつなのさ  
きっと僕達は 数多の魔法の 集合体だね

魔法使いは 魔法が大好き  
それも理由の ひとつかもしれない

『まほうはどうして まほうなのかな？』



犬先生：私にとっての魔法は、ほびーであり ぱふえである。うっ胃がっ



ラクシャさん：僕にとっては、癒しであり仕事です。うっ肩と腰がっ



白黒2ずと、つぎつぎおこた  
テーブルに手をついたきり とびこみつづける

たいかんした、て、なんだろう？

青空 並木道 巨大な橋に 何かが泳ぐ海辺  
どこまでも続く道に 世界の果ての 滝くんだり

視界がひらけ 雪の農道  
音もなく 耳しびれ 雪を踏めば ぎゅっという

でも それは 夢の奥で見ている 夢  
でも それは 夢の中では たしかな体験

へんだけど おかしいけど こたつも眠る 下  
おしりだけだした 仔犬たちの尻尾 ふわふわしているよ

『もしも 体験が 脳の記憶の処理なら  
朝 散歩している つもり 水槽内の脳に浮かぶ印象は なにかな？』



犬先生：ふふふ...らくさくんの尾にいいものいれといた...ぐふう



ラクシャさん：（どういう状況だろう...）



あたたか おこたと もわもわ白黒  
きょうは2匹の姿 どんどん

平面 立体 時間もあちこち  
植物 動物 どんなものにも

3じげんのむこうって、どんなかな？

変わるたびに なにかみつける  
変わるたびに わすれてしまう  
もしやせかいも こうなんだろうか  
それいがいも それいがい なんだろうか

だいじなこと わすれそう  
それだけは わすれたくなくて  
変わりかけの 奇妙なとおぼえ  
2匹 どさっともとにもどって  
やっとおこたに あたったけれど

ぜんぶもとだか もとはなんだか

まだぼんやりしてたがいにみつめた 赤と青の目  
2匹あわせて 嘔き笑うまで

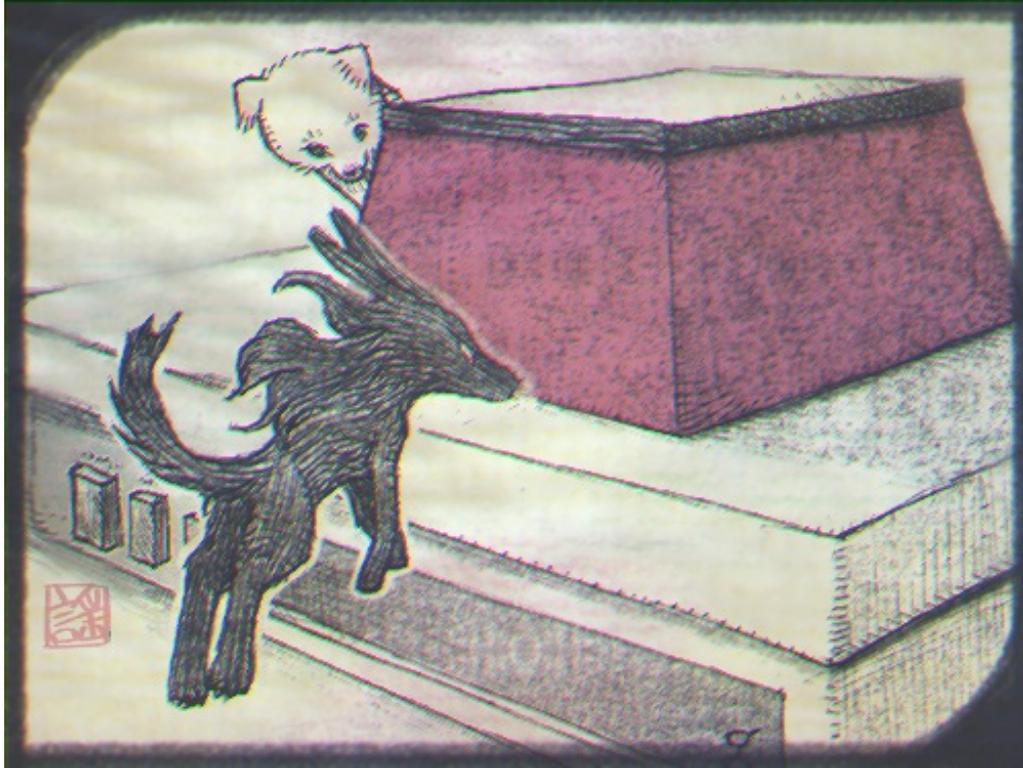
『もしも3次元以上のもの そこにいたら  
3次元のなかで それだとわかるかな?』



犬先生：私には幾多の名と別の姿が 謎の数だけ あるのである。



ラクシャさん：そういえばこの間、謎ガールになって闊歩していたね。



白黒2ずと、はかりのうえのおこた  
のりおりしつつ、2匹のココに浮かびきたこと

なにをはかりにして いきているかな？

白と黒 長い旅して 夢奥へ来るまでに  
さちを持ちくるとも 魔物とも呼ばれた  
そうだと思った いろいろたちは  
そうだと思った ことをしている

そのなか ココは だれも みえずに

大きい 小さい はっきり あいまい  
せっかち じっくり こだわり のびのび  
いろんなココの はかりがあるなら  
2匹には 2匹のはかり

白 悪夢から記憶守るけど 黒犬さんは 古馴染み  
黒 夢の奥に魔法溢れさせるが 白犬さんは 古馴染み

おこたと2匹のおひるね分を表示した はかり  
だんだん透けて きえていく

『どんなものを はかりにしている？』

. . .



犬先生：私のはかりは黒字に金がよいのう...そこに赤か緑。



ラクシャさん：僕のは青と白と銀かな。それで、何をはかるんだい？



白黒2ずと、おこたつマシン  
歩いていくから、あたれない

きかい どんなこと したいのかな？

僕らはいぬだと 教えたら  
長い鉄の首 直線的に下ろしてきて イヌ と発した  
そして 自分の体をごんごん小突いて イヌ と  
いやいや、きみは こたつみたいだよ

がしゃ がしゃ あるきつつ コタツ イヌ  
止まってみせては コタツ ジャ ナイ と  
いやいや、きみは こたつみたいだよ  
がしゃ がしゃ は あるく だよ

コタツ アルク イヌ アルクと角ばった 軽快  
コタツ ハ イヌ？  
イヌ ハ コタツ？と、聞かれて  
そうだともちがうとも 言いかねて 立ち止まり  
～たち を教えたら

イヌ タチ イツ マデ?と 聞いてきた

ぶらぶら クレーン

歩く を 止めて

体の一部の こたつルームの ハッチを開けて 足場を伸ばした

僕達 いつまでだろう

まあ あたろうじゃないか

さて こたつマシンは いつまでかな?

『学んでいく機械の知識は 知性かな?ほかの なにかかな?』

. . .



犬先生：魔法と機械の知識の両文明を継ぐ生物も いつだか 作った気が...



ラクシャさん：色々作っているね。そのこなら ほら、ナッツにまぎれてるよ。



白黒2匹と こたつのまわり  
蛇体の竜が 漂っている

やっぱり竜も ふしぎだな

どんな姿か しているけど  
だれもばっちり みたひとはいない  
どこにいるのか 伝説にあるけど  
だれもばっちり 捕まえたことはない

それから 2匹は  
いろんな竜を空想しました

毛もじゃ 蝶の羽根 虹色 気体  
金属 透明 植物に岩石  
そして 僕らみたいな と考えたとき  
2匹自身も 竜に似ていると 気づいた

あわせて 漂う竜を見上げたら  
毛もじゃ 蝶の羽根 虹色 気体

金属 透明 植物に 岩石を 身に生じ  
2匹に似た 声の響きを 残して

雲のように 消えた

『竜 どんな いきもの かな?』

. . .



ラクシャさん：空でもたまに、見かけたりするんだ。



犬先生：この間ら一めん屋さんにもいたぞ？竜どの。



白黒2 ずとおこたと 道  
なんとなくたどりながら 考え始めた

すべてのはじまりって、なにだったんだろう？

木やなにかからできたというのは、そのおこたの はじまり  
芽が出て というのは、原料になった木の はじまり  
そのまえの まえの まえの さいしょ

そうなるともう はるかとおく  
もうみえない いろいろの 木の枝分かれのような 道の 元に  
あらゆるものの ほんとうのはじまりになった なにか

こたつも 2匹も どころらせ  
魔法で出したたべもの たべる  
ころん ころころと 食べこぼしの かけらが  
枝分かれの道の先 ちょこちょこ めざしはじめたよ

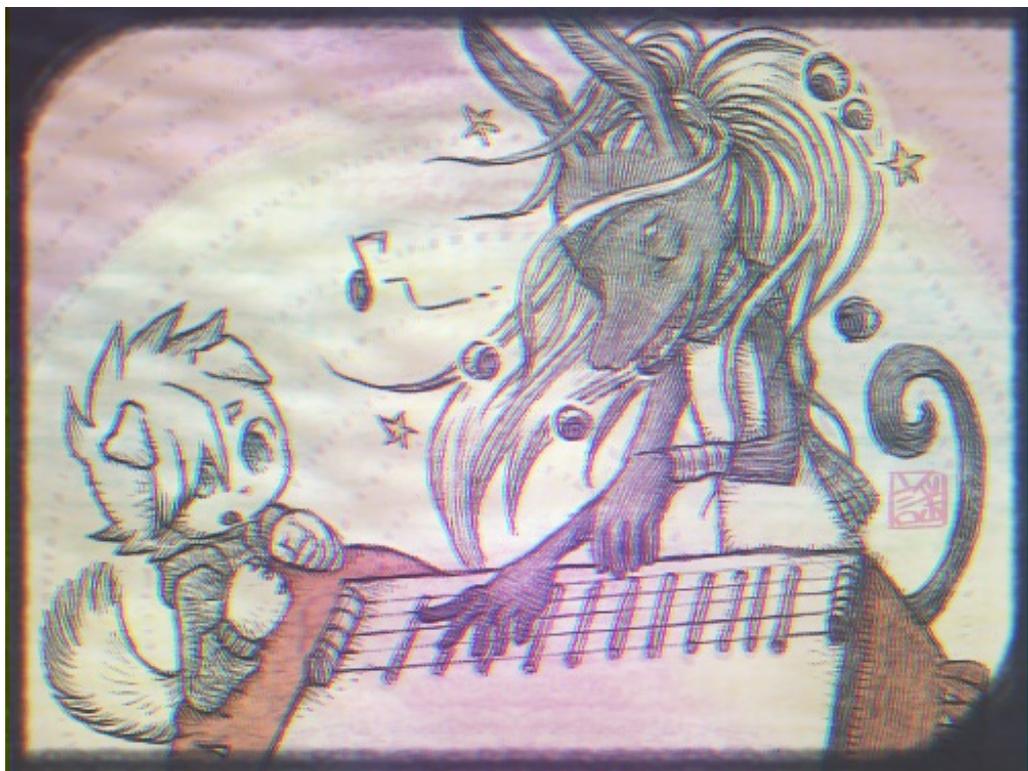
『あらゆるものの さいしょ なにかな？』



ラクシャさん：あ、そここぼれたよ...あっ



犬先生：ふむ。ン、どうした？（もぐもぐ）



ねむたげこたつと音楽 白黒2匹  
今日は黒犬さん 歌ってる

でもやっぱり へんてこな歌

♪かけゆく おうま  
おうまは わたる  
つきも わたり かけゆく  
なら おうまは つきだろう

白犬さんは 手拍子 合いの手 そしてあれ?と

♪ぶくぶく 泡出す  
すべすべ かにさん  
海もぶくぶく 泡出る  
なら 海は かにだろう

3つめまでは 歌詞 ふんふん  
その次でなんだか へんてこになる

白犬さんは 手拍子 合いの手 そしておや？と

♪球形 風景

星に ひろがる

瞳も景色 見ゆ 球

なら 星は 目玉だろう

意味の不思議を おもいつつ

ひとときの ひらめき 宿した歌は

どのあたりまで とんでくだろう

おかしい魔法の 夢の奥を

『”よつつ概念の誤びゅう”の歌 他にどんなの できるかな？』

. . .



ラクシャさん：くやしいけども本当に上手だね、君の弦楽。



犬先生：私は味があると思うぞ、君の...ん～、のどかな歌声。



白黒2ずと、おこたと、飛ぶもの  
それは無数の たたまれた紙

くじを ひいてみよう と、黒犬さん

どちらが なにの ことばを ひくか  
わからないまま はじまって  
2匹 ぱしっと しっかり 選んだ

そうっと そうっと ひらいてみると

白の紙に 描かれた鳩が ぽふ と鳴き  
黒の紙には テーブル片付けと 書いてあった

2匹 顔を見合わせ 黒犬さんは お片づけ  
さてでは、もう一度 ひいてみようかと、白犬さん

黒の紙のほねガム おいしげ  
白の紙から 年季の入った靴下 どさどさ

帽子 ぼーる とうふやさんの音  
おふろ オアシス くし おやつ

くじをひくのは ちょっとこわいね  
くじをひくのは ちょっとわくわく  
やってみようか といったものが はずれをひく こともあり  
おもいがけなく あたりをひく ひともあり  
そのしかけ なにがあるかな

2匹 どうやら まだためして みるみたい  
さて、つぎは なにができるかな？

『もしも皆 決めかねたとき くじをひこうと すすめる？』



ラクシャさん：お、魔法犬仕様のみかんだって。君もたべる？



犬先生：お、カニさん。これで5匹目か...これ、何がアタリなのだ？（かさかさ）



白黒2ずと、赤いおこた  
発見することが 本日のごーるですよ、と 旗がいった

なにを はっけん すれば それかな？  
わからないけど やって見た

だけど なんだか むずかしい  
魔法使い達 目に見えぬ何かだとまでは 解いたけど  
なにやら だれやら こたつも 首を振るようで

それが 2ずを よけている？  
2ずが まだ 解きおわっていない？  
もうあるけれど、わからないだけ？

ふ〜ん と いぬ族らしい 溜息つくと

投影された影だけの何か 旗をくわえて  
景色つきぬけ 飛び去っていった

『なぜ”それ”は まだ謎のむこうかな？』



犬先生：ほ～れほれ謎よ 魅惑の魔法おやつであるぞ～



ラクシャさん：さあさあ謎さん、おこたもありますよ～



灯るこたつと、白黒2匹

今日は 言語が つうじない

この きもちは なんだろう？

ここは でたらめに魔法が呼吸する ところ

だから あるなら あるかもしれない

でも

白は たのむように 言い聞かせるように 黒をみつめた

黒は じぶんの影を 少しかじって振り回し 白の横顔 くんくんと

ちょっと不安に なったかな

こうすればいいかもが もうできなくて 悲しいかな

でも

ここはへんてこ 2 ずもへんてこ

いっしょに 心配そうなこたつ もぐりこみ

せなかにあごのせ お腹の中の不思議な音 聴き ねむったら

へんてこな数千年 思い出しました

どちらかが くうんといえは

どちらかが ペろっとする

もう からだがなくたって

まほうの姿 もっているんだ と

そうやって ここまで来たね と

大魔法使い達 他にはみせぬ 心細さと しみるぬくもり

『ふあんで こうかいて なんだろう？』

. . .



犬先生：わふ... (ふ～ラクシャ君は体温高めでぬくいのう)



ラクシャさん：ううっ おわん！ (犬先生の腹 ヘンな時計の音...おわっ星と目玉がっ)



白黒2ずとおこたと 飾り  
彩色の光 ふおふお じゃれつつ  
白黒ふっと かんがえました

このとき のこらず かわりゆく?こと

ごはんのにおい はなびのきらめき  
そらくものいろ こぼれた なみだ  
なんだかへんてこわらった おはなし  
丸いまなざし しっぽの表情

夢奥の "大魔法使い" ぼくらだって  
きっとそのような 粒なんだろうねと

尾をゆる振り きえていった 光のなごりを  
でも だから 灯るんだね と

消えてはたえず あらわれ 飛び交う なぞを  
とっとこ2匹 おいおいのように  
かけまわっては はいたちしたよ

『きねんび なにから はじまったかな？』

...



ラクシャさん：この丸い光 なんだろうね...わふっそこだっ！



犬先生：謎に戯れるこそ 我が根幹...このまるは私がわおーん！



白黒2匹と おこた そろそろ？

凍える季節は つづくけれど

そういえば、つづくって なにかな？

すべては 途中だと だれかがいった

途中でありつづけている いまだと

あらゆるものは いつだか うまれた

あらゆるものに かぎりがあるなら

いったい なにの 途中だろう

黒は すべては 終わる途中さと 微笑む切れ長の目で

うかび しずみ くたびれて

眠りに彷徨い 深みに着いたものたちを

このまほうの黒犬 鮮やかな怪夢でもてなそうと

白は すべては 始まる途中かもしれないと 凜とした目で

連なる日々と ひらめきと

眠りに彷徨い 雲間にあそぶ ものみなに

僕まほうの白犬 爽やかな快夢 贈りたいと

いぬのなかの ふしぎないぬたち  
あらゆるまほう いつだか うまれた  
あらゆるまほう かぎりか あっても  
なんだかんだで 夢の奥の雲の高みを 深淵の渦巻きを  
日々守る 散歩する 2匹と、おこた

魔法犬仕様のみかん ぽけっとにつめて  
それぞれかえって いきました

『せかい なにの とちゅうかな?』

. . .



犬先生：ああ...よく寝た夢をみた。...ん？



ラクシャさん：やっぱり和むね、おこた。





Thank you 2018,  
Let's go 2019!!

毎度おかしなものをお読み下さり、  
ありがとうございます！

2019年も 柔らかく不思議な物語を  
つぶつぶと 描いて参ります。

それでは、また～

うたいぬ ゆね

2019年は、2018年にひきつづき、「ミオリさん」のおはなしをupして参ります。

「ココびと ふえすたむ」や、この「いぬせんず」も、もちろんに！

おや、2匹からひとことずつ あるようです。

. . .



犬先生：やあ諸君、今年中のすべきこと山踏破は叶ったかな？

私は...おっとこれは秘密かな。（尻尾ふりふり）

尻尾まであたため、風邪に注意して怪夢を楽しみたまえ。

ではまた、12の月に777...



ラクシャさん：どうもこんにちは。そして、おつかれさまです！

魔法犬仕様のおせちはやく食べたい所存です。（尻尾ふりふり）

ここまで来た身によしよしして、新しい日々をむかえましょうね。

それでは、よいお年を！

## いぬせんずの 仮想おこた

<http://p.booklog.jp/book/124394>

こんにちは、どうも。

毎度ヘンなものをお読み下さり、ありがとうございます！

今回は、色々なパラドックスや誤びゅうから描いてみました。

考えるほど「...ん？」となるものの、ヘンな味わい  
少しでもお楽しみいただけましたら、なによりです。

(加えて今回、犬先生がいろんな髪型になっております。)

犬先生とラクシャさんのお話、出来る限り年末に続けて参ります。

それでは、よいお年を&また新たなまとめ本にて！

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/124394>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト